

令和7年度 第3回
徳島県GIGAスクール構想推進本部会議

徳島県GIGAスクール構想推進本部



次 第

日時 令和8年3月12日(木) 午後1時30分から午後2時45分まで

1 開 会

2 本部長挨拶

3 報告・協議

(1) 推進本部事務局の報告

- ・本年度の推進事項の結果
- ・次年度の推進事項の方向性について
- ・「徳島県学校教育情報化推進計画(第2期)」について

(2) 推進チームの報告

- ・とくしまGIGA推進月間について
- ・次年度の指導体制について
- ・「徳島ICT活用モデル-SAMR段階の再認識-」について

(3) 各部会の報告(各部会長より報告)

- ・本年度の成果と課題
- ・次年度の目標等について

(4) その他

4 閉 会

出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育長	中川 斉史	本部長
徳島県市町村教育委員会連合会 会長 <small>(徳島県教育委員会 教育長)</small> 徳島県市町村教育委員会連合会 副会長 <small>(徳島県教育委員会 教育長職務代理者・鳴門教育大学 教授)</small>	松本 賢治 藤田 完	副本部長 欠席 代理出席
徳島県教育委員会 副教育長	松本 光裕	副本部長
徳島県小学校長会 副会長(脇町小学校長)	大塚 一志	
徳島県中学校長会 会長(那賀川中学校長) 徳島県中学校長会 理事(穴喰中学校長)	笠谷 祐史 久保 善信	欠席 代理出席
徳島県高等学校長協会 会長(徳島北高等学校長)	向井 佳子	
徳島県特別支援学校長会 会長(鴨島支援学校長)	喜多 久美子	
徳島県教育委員会 教育次長(幼・小・中学校担当)	海老名 正規	
徳島県教育委員会 教育次長(高・特別支援学校担当)	眞摺 秀也	

出席者名簿

所属及び役職	氏名(敬称略)	備考
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	地面 浩	
徳島県教育委員会 教育DX推進課 課長	戎 弘人	教育DXタスクフォースリーダー ／共同調達検討部会長
徳島県教育委員会 教育DX推進課 主幹	黒田 收	推進チームリーダー/ 情報モラル・情報セキュリティ 対策部会長
徳島県教育委員会 義務教育課 課長	長谷 彰彦	
徳島県教育委員会 義務教育課 主幹	村岡 文英	中学校部会長
徳島県教育委員会 高校教育課 課長	金岡 由岐子	欠席
徳島県教育委員会 高校教育課 主幹	藤本 智美	高等学校部会長
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	中山 登	特別支援学校部会長
徳島県教育委員会 いじめ・不登校対策課 主幹	宮田 善夫	学びの保障部会長
徳島県立総合教育センター 次長	宮城 佳恵	小学校部会長
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	平田 義明	データ活用研究部会長

【事務局】徳島県教育委員会 教育DX推進課 GIGA・学び創造担当

事務局長：富永憲志、庶務担当：山下芳紀、事務局員：楠俊弘・大西芳正・藤倉新・播磨敬二

(1) 推進本部事務局の報告

- 本年度の推進事項の結果
- 次年度の推進事項の方向性について
- 「徳島県学校教育情報化推進計画（第2期）」
について

(1) 本年度の推進事項の結果

令和7年度 徳島県GIGAスクール構想推進本部

令和7年度の推進目標

「学びを豊かにする教育DXの推進」

- ・各校における「徳島ICT活用モデル」のM段階の事例研究・創出



令和7年度の全体重点目標

- ① GIGAスクール構想の更なる展開
 - ・「徳島ICT活用モデル」による学び・指導の変革とICTの活用推進
- ② ICTを活用した教育の推進
 - ・県域アカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進
 - ・先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進
- ③ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成
 - ・児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

重点推進事項

- ①「徳島ICT活用モデル」のM段階の事例創出
- ②「県域のアカウント」の普及

(1) 本年度の推進事項の結果

教育DX推進に係る調査(11月)の結果

Q1: 現在、校内の授業で「徳島ICT活用モデル」のM段階の事例は見られますか?

校種	見られる	見られない
全校種	80.0%	20.0%
小学校	79.2%	20.8%
中学校	77.2%	22.8%
高等学校	85.4%	14.6%
特別支援学校	90.9%	9.1%

どちらの重点推進事項も約8割の学校で目標が達成されている。

Q2: 現在、校内で県域のGoogleアカウントを活用していますか?

校種	児童生徒のみが活用	教員のみが活用	どちらも活用	どちらも未活用	※活用率
全校種	5.2%	45.5%	30.7%	18.6%	81.4%
小学校	2.5%	48.4%	25.2%	23.9%	76.1%
中学校	2.5%	55.7%	21.5%	20.3%	79.7%
高等学校	22.0%	14.6%	63.4%	0.0%	100%
特別支援学校	0.0%	45.5%	54.5%	0.0%	100%

※中等教育学校・市立高等学校も含む

(2) 次年度の推進事項の方向性

令和8年度 徳島県GIGAスクール構想推進本部

令和8年度の推進目標（案）

学びを豊かにする教育DXの推進 ～自分らしく学び、未来を創る～

- 各校における「徳島ICT活用モデル」のM段階（児童生徒の主体的な学び）の事例研究・展開 ※創出 ⇒ 展開 ⇒ 定着 ※目的を意識
- 生成AIを含む「県域のアカウント」の活用 ※普及 ⇒ 活用

令和8年度の全体重点目標（案）

- ① GIGAスクール構想の更なる展開 ※生成AIの理解と活用（教育ツールとして）
 - ・ 「徳島ICT活用モデル」による学び・指導の変革とICTの活用推進 ※活用は必須
- ② ICTを活用した教育の推進
 - ・ 県域のアカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進
 - ・ 生成AIや先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進
- ③ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・ 児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、生成AI、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成
 - ・ あらゆる教科・領域の中でのSTEAMの考え方を意識した授業の展開
 - ・ 児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

※STEAMの視点

※R8は「徳島教育大綱・徳島県教育振興計画-第4期-」の最終推進期間のため、全体的には大きく変更していない。

(2) 次年度の推進事項の方向性

令和8年度 徳島県GIGAスクール構想推進本部

令和8年度の推進目標（案）

学びを豊かにする教育DXの推進 ～自分らしく学び、未来を創る～

- 各校における「徳島ICT活用モデル」のM段階（児童生徒の主体的な学び）の事例研究・展開
- 生成AIを含む「県域のアカウント」の活用

令和8年度の全体重点目標（案）

- ① GIGAスクール構想の更なる展開
 - ・ 「徳島ICT活用モデル」による学び・指導の変革とICTの活用
- ② ICTを活用した教育の推進
 - ・ 県域のアカウント（クラウドツール）利活用の研究・推進
 - ・ 生成AIや先端技術を活用した新たな教育の可能性を広げる教育の研究・推進
- ③ ICTの利活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実
 - ・ 児童生徒の主体的な学びを支える情報活用能力（情報モラル、情報セキュリティ、生成AI、プログラミング的思考に関する資質・能力を含む）の育成
 - ・ あらゆる教科・領域の中でのSTEAMの考え方を意識した授業の展開
 - ・ 児童生徒の発達段階や学習段階、多様な学習ニーズに応じた教育活動の推進

(3)「徳島県学校教育情報化推進計画(第2期)」について

※ 3月12日(木)に、教育委員会定例会にて付議・策定(予定)

徳島県学校教育情報化推進計画

第2期

第1章 計画の基本的な事項

1 基本方針

学びを豊かにする教育DXの推進

※徳島県教育振興計画(第4期)推進項目から設定

2 計画策定の趣旨

Society5.0時代の到来によりICTを基盤とした先端技術やビッグデータの活用により、新たな価値を生み出すことが可能な時代へと加速度的に変化しています。このような社会状況の中で、児童生徒たちには、自ら身近な事象から解決すべき課題を発見し、主体的に考え、協働して課題解決策を生み出すことができる資質・能力の育成が強く求められています。

こうした次代を担う児童生徒たちの育成に向け、全ての児童生徒たちが状況に応じて効果的に教育を受けることができる環境を整備するため、学校教育の情報化の推進に関する事項を定めた「学校教育の情報化の推進に関する法律(令和元年法律第47号、以下「法」という。)」が令和元年(2019年)6月に公布・施行されました。

本計画は、法第9条に基づき、本県における学校の情報化の推進に関する施策を総合的・計画的に実施するため、策定するものです。

3 計画の位置づけ

本計画は、本県の学校教育の情報化の推進に関して、今後の施策の方向性を示すものです。同時に、法第9条第2項において努力義務とされている市町村の学校教育情報化推進計画の策定に当たっての参考となるものです。

また、「徳島県教育振興計画(第4期)」(以下「振興計画」という。)の下位計画として、学校教育の情報化の推進に係る具体的施策を示すものです。本計画の推進に当たっては、県内のDX推進に向けて本県が策定した「とくしま新未来DX推進プラン」と整合的に施策を展開します。

さらには、令和7年6月にデジタル庁及び文部科学省等が策定した「教育DXロードマップ」に示された目的と具体的な施策の実現に向けて取組を推進します。

4 計画の期間

本計画(第2期)の期間は、令和8年度(2026年度)から令和9年度(2027年度)までの2年間とします。第3期策定時には、上位計画の振興計画期間と同じ4年間の計画として整合性を図るため、第2期は短期計画とします。

⋮

※ 一部、抜粋

(2) 推進チームの報告

- ・とくしまGIGA推進月間について
- ・次年度の指導体制について
- ・「徳島ICT活用モデル-SAMR段階の再認識-」
について

(1) とくしまGIGA推進月間について

とくしまGIGA推進月間

- ・ とくしまGIGA推進月間は、例年、6月と11月に実施。
- ・ 今年度は、11月の実践事例を各校のホームページに掲載。
- ・ 推進チームにて掲載先URLを一元化し、各校に共有。（関係機関のみ）



徳島県GIGAスクール構想 ポータルサイト

GIGA推進本部

GIGA部会通信・推進チーム
からのお知らせ (R7年度)

GIGA部会通信 (R6年度ま
で)

徳島ICT活用モデル

徳島ICT活用モデル推進チ
ーム

徳島県ICTスキル習得体系
表

※要パスワード

【令和7年度】「とくしまGIGA推進月間」の実践事例紹介

今年度、県内の各小学校・中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校で実践された取組を共有します。ぜひ、御自身の授業の参考として御活用ください。

（備考欄に「複数掲載」の表記がある学校は、一覧に記載のURLを入り口として、いくつかの実践事例が掲載されています。）

[R7_とくしまGIGA推進月間_URL一覧 \(20260204現在\) .xlsx](#)

- ・ グループウェア、教育JoruriGWの掲示板にて、お知らせしています。
- ・ 徳島県GIGAスクール構想ポータルサイトからもアクセス可能です。

(1) とくしまGIGA推進月間について

各校における 校内で必要であると考えている取組の割合

約8割の学校でM段階の取組が見られる一方で…

※1【算出方法】該当校数/対象校数

※2:各校、最大3つまで選択可の条件指定で回答

校種	ICTの活用推進	ICTの効果的活用	データ利活用	児童生徒の情報活用能力の育成（モラルも含む）	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた研究・実践等
全校種	41.7%	59.7%	12.8%	46.9%	31.7%
小学校	42.1%	60.4%	10.1%	54.1%	38.4%
中学校	45.6%	59.5%	13.9%	46.8%	26.6%
高等学校	29.3%	56.1%	19.5%	29.3%	19.5%
特別支援学校	54.5%	63.6%	18.2%	9.1%	18.2%

校種	デジタル人材の育成	機器・ネットワーク環境の整備	ICT支援員との連携	現状の取組を続ける。（概ね推進事項は実現している。）
全校種	45.9%	24.8%	14.5%	1.7%
小学校	39.6%	21.4%	16.4%	1.9%
中学校	45.6%	25.3%	12.7%	1.3%
高等学校	68.3%	36.6%	12.2%	0.0%
特別支援学校	54.5%	27.3%	9.1%	9.1%

児童生徒が日々の授業でICTを活用せず、情報活用能力の育成は図られない。

- ・「ICTの活用推進」を課題とする学校は、依然として多い。
- ・本県も、ICT活用について、校内での教員格差が大きいと推察される。

(2) 次年度の指導体制について

徳島県の現状

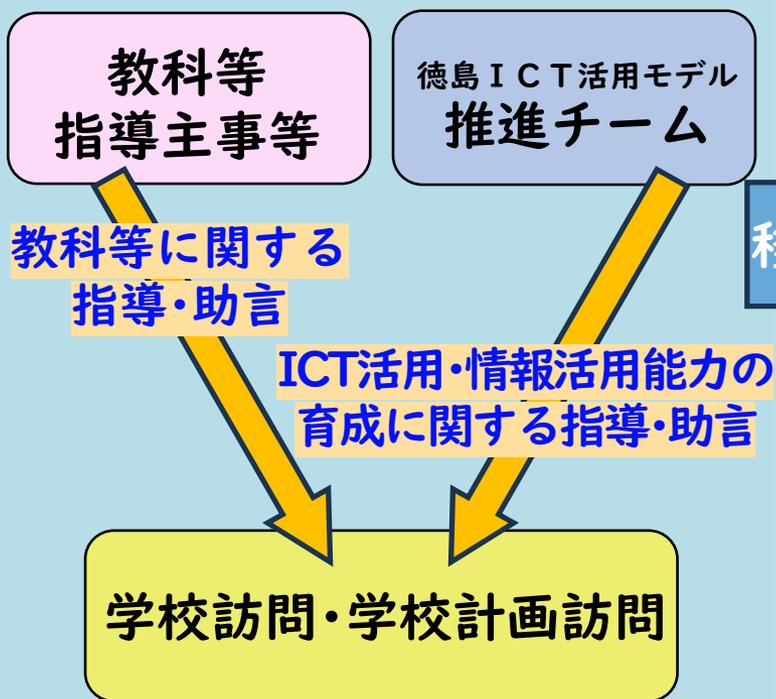
- ・ICTの活用推進が課題
- ・教員の二極化 など

指導の強化
が必要

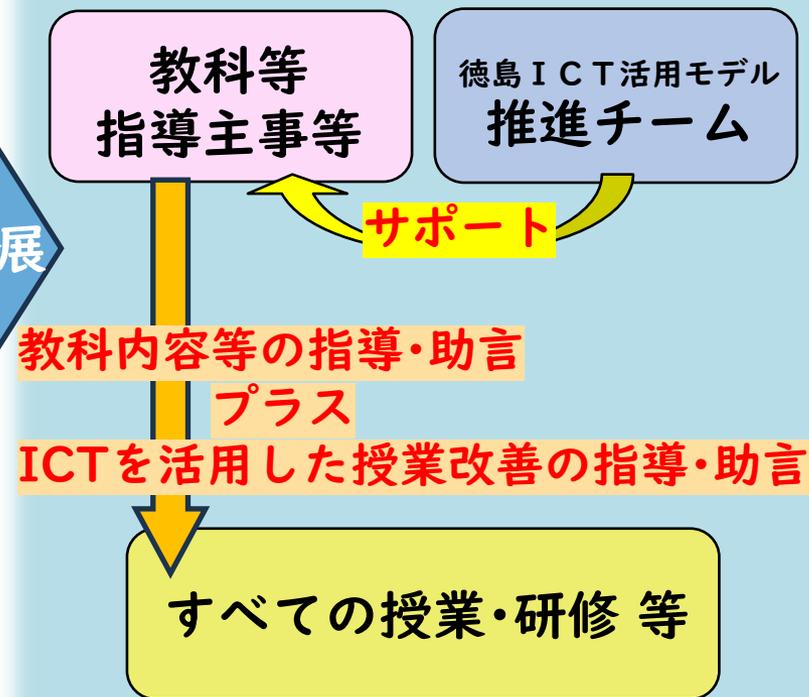
国が示す方向性

- ・デジタル学習基盤を前提とした学び
- ・情報活用能力の抜本的向上 など

令和6・7年度の指導・助言体制



令和8年度の指導・助言体制



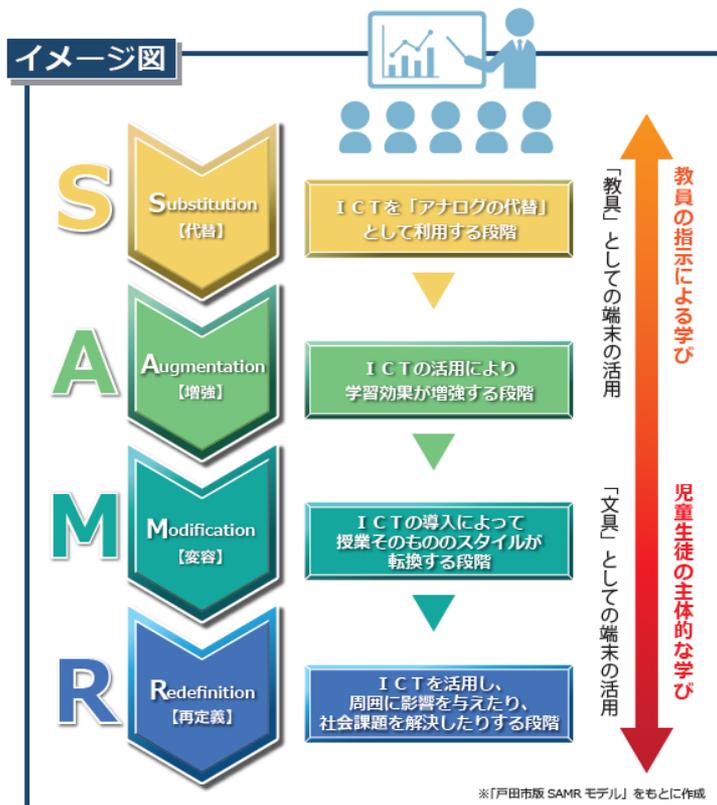
移行・発展

(3) 「徳島ICT活用モデル-SAMR段階の再認識-」について



徳島ICT活用モデル

活用モデル」は、県内の小・中・高校・中等教育学校・特別支援学校におけるDXに
 指導の変革、1人1台端末の日常的・効果的な活用の推進のために策定しました。
 業や学習者にどのような影響を与えるのかを示す段階及び指標（S～R）をもとに、
 活用の定点観測をしたり、授業デザインを構想したりすることを通して、児童生徒
 の学びと協働的な学びの一体的充実のために役立ててください。



- ・ 令和6年3月、推進本部にて策定
- ・ 令和6年4月、全教職員へ配布

令和6年度の目標

A段階以上の実施率が、全校100%を目指す。

令和7年度の目標

各校における、M段階の事例創出を目指す。



- ・ 2年間にわたり、「徳島ICT活用モデル」を基にした活動を展開
- ・ これまでの実践事例等をふり返し、改めてSAMR段階を整理

(3) 「徳島ICT活用モデル-SAMR段階の再認識-」について

徳島 ICT活用モデル

～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向け～

- SAMR 段階の再認識 -



令和7年度 徳島 ICT活用モデル推進チーム





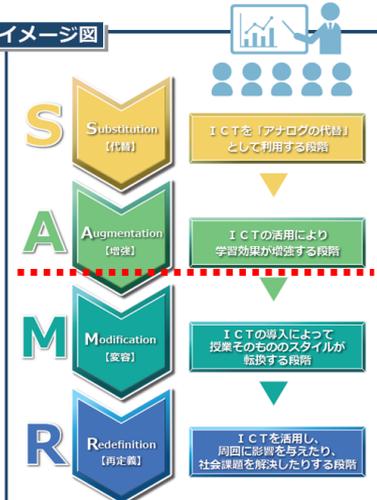







徳島ICT活用モデル

イメージ図



S Substitution (代替)
ICTを「アナログの代替」として利用する段階

A Augmentation (増強)
ICTの活用により学習効果が増強する段階

M Modification (変容)
ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換する段階

R Redefinition (再定義)
ICTを活用し、周囲に影響を与えたり、社会課題を解決したりする段階

「教員」としての端末の活用

「児童」としての端末の活用

教師が主導して、学びの質の向上を図る。
従来の授業にICTを組み込み、指導や学習の効果を高めていくフェーズです。

このラインが一つの大きな転換点となります。

児童生徒が自ら1人1台端末やクラウドツール等を活用し、自分に適した学びを調整する。
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が可能となるフェーズです。

※戸田南蔵 SAMR モデル」をもとに作成

児童生徒の主体的な学び ～ 児童生徒の「文具」としての端末活用 ～

M

ICTの導入によって授業そのもののスタイルが転換する段階

- これまでの学習経験を生かして、児童生徒が自ら学びを自己調整する段階です。(指示どおり学ぶ⇒自分で考えて学ぶ)
- 教師は指示・伝達をすることより、児童生徒が主体的に活動できる仕組みや場づくり、個別のサポート、協働のコーディネートの役割を担う側面が強くなります。
- M段階への転換を目指していますが、学び方の土台となる「教員の指示による学び」や「SA段階の学び」を否定するものではありません。(≠学習の放任)

R

ICTを活用し、周囲に影響を与えたり、社会課題を解決したりする段階

- 児童生徒の学びが、実社会や実生活など、リアルとつながっていく段階です。
- 総合的な学習（探究）の時間とは親和性が高く、正解が一つでない問いに対して、情報を収集・整理・分析し、まとめ・表現するプロセス自体がMR段階の学び方を必要とします。
- 各教科等の学習においても、単なる知識の暗記にとどまらず、実社会や実生活の課題解決に生きて働く知識・技能を習得することがねらいとされています。

- 児童生徒がよりよく学ぶためのICT活用 -

授業の転換点となるA段階とM段階の展開イメージ

- A段階の展開イメージ -

導入

今日の学習のめあては「○○」です。では、タブレットにワークシートを配りますね。

はーい。

展開①

まずは自分でやってみよう。難しい人は、○○のフォルダにヒントがあるからね。

できた人は、チャレンジ問題もあるよ。

チャレンジがんばるぞ！

ヒント欲しい。

- M段階の展開イメージ -

導入

めあて・学習内容・ルーブリックを確認して、始めましょう。

教科書の他に、○○を使ってもいいですよ。

先生と…

一人でS評価を目指すぞ！

A評価までがんばる！

友達と…

展開①

Aさんは順調だな。Bさんには動画も進めてみよう。

Cさんの考えは全員に共有したいな。

前のやり方が今回も使えそうだな。

先生の説明を見よう。

思考ツールでまず整理してみよう。

スライドで…

※次のスライドに続きます。

(3) 各部会の報告（各部会長より報告）

- ・本年度の成果と課題
- ・次年度の目標等について

令和7年度 小学校部会の役割

小学校の実態・発達段階等に応じ、推進目標・全体重点目標の実現を支援
- ICTを日常に生かし、学び方を選べる子を育てる使い方を広げる -



教育DX推進事業Ⅲ海部小学校
公開授業（生成AI×STEAM）

令和7年度の成果と課題

M段階(児童主体の学び)の推進

成果

M段階 73%→**80%** (児童主体の実践が拡大)
基礎技能の向上：タイピング大会
参加2.4倍/約3,300人、挑戦約5万回

課題

ICT活用が学びの深まりにどう結び付いているかを評価する視点が十分ではない
児童主体への転換に向けて、どこまで児童に委ねるかという授業設計に課題がある
「使うこと」から「学びを変えること」へ

転換点

量の拡大から
学びの質を
検証する段階へ

「なぜICTを
活用するのか」
という目的の共有

県域アカウントの利活用推進

教員 **73.6%** 教員活用率 **74%**へ
→ 研修・校務での活用が定着
端末更新・クラウド整備→環境基盤が安定
振り返りシートの県内共有による学習蓄積基盤の整備



児童活用率 **30%**未満
→ 活用主体が教員中心にとどまっている
教員主導から、
児童が自ら選び活用する段階への転換が必要

令和8年度の重点目標・方策等(案)

重点目標：児童が自ら学びを調整し続ける力の育成 〈基盤〉 SNS・生成AI時代における情報モラルの徹底

1 授業改善の深化

- ・ M段階実践を体系化と横展開
- ・ 生成AIを思考整理・比較検討を支える補助として位置付け

2 学びの可視化と蓄積

- ・ 振り返りの蓄積と学習ログ化
- ・ 県域アカウントを協働学習の基盤として位置付け

3 情報活用能力の育成

- ・ タイピング大会を継続実施
- ・ 段階的研修による格差の縮小
- ・ 情報モラルの体系的指導

令和7年度 中学校部会の役割

中学校の実態・発達段階等に応じた推進目標・全体重点目標に向けた支援

令和7年度の成果と課題

〈成果〉

- ・持ち帰り学習で、発展的な内容に生徒が取り組めるようにし、ICT活用の幅を広げた。
- ・Gemini™やGemを活用し、生徒の探究心や表現力を引き出す工夫をした。
- ・章末レポート、白紙レポートを通じて、生徒が単元のゴールを意識しながら学習に取り組めた。
- ・ファシリテーションとICTを融合させた校内研修や授業実践が活発に行われた。
- ・Google Workspace for Educationを活用し、校務や授業の効率化、情報共有がスムーズに行われた。
- ・GAS (Google Apps Script) を使った自動通知やカレンダー連携など、実務面でもAIを活用した。

〈課題〉

- ・プロンプト設計において、安定した出力を得るための工夫が必要。
- ・生徒の情報活用能力・表現力の育成。
- ・教科横断的な連携と実社会との接続の強化。

令和8年度の重点目標・方策等(案)

〈重点目標案〉

生成AIとICTを活用し、生徒の主体性と情報活用能力を育む学びのデザイン

〈方策案〉

- ・生成AIを活用した探究的な学びの推進：GeminiやGemを活用した活動の実践事例を蓄積・発信
- ・情報活用能力の育成：情報の収集・整理・発信に関するスキルを段階的に育成する指導事例を発信
- ・校内研修と教員の学び合い：Google Workspace for Education やGASを活用した校務効率化の好事例を共有
- ・実社会とつながる学びの創出：外部専門家や地域資源と連携

令和7年度 高等学校部会の役割

ICT活用による学び・指導の変革と県域アカウントの利活用推進

令和7年度の成果と課題

【主な取組】

- ・ **実践事例の積極的な発信**: 「部会通信」を計9回発行し、教科・校務・生成AI等、全34事例を発信
- ・ **研修のDXと利便性の体感**: Google フォーム、Google Classroom、Canva等を実際に活用し、教員が利便性を体感する機会を提供

【成果】

- ・ 「徳島ICT活用モデル」の浸透と実践フェーズへの移行: M事例創出校が85.4%に上昇(ツールの活用が日常化)
- ・ **教員のスキルアップ意欲の向上**: 「デジタル人材の育成(教員のICTスキルアップ等)」へのニーズが68.3%へ急増(前回:36.6%)
- ・ **生徒主体の活用の広がり**: 生徒の活用率85.4%(探究活動等で「使いこなす」自律的段階へ変容)

【課題】

- ・ **情報活用能力の育成**: 活用の広がりに伴い、生成AI利用等のリスク管理や情報モラルの育成を目指した計画的指導が急務
- ・ **学びの「質」の向上**: 操作の習得を目的化せず、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の深化へ

令和8年度の重点目標・方策等(案)

【重点目標案】 ICT活用による学び・指導の深化と、生成AIを含む県域アカウントの活用

【方策案】

- ・ 「使える」アーカイブの共有: M事例を各教科にも広げるため、活用しやすい形式で県立学校掲示板にて発信
- ・ **教員の指導力向上研修の充実**: 授業デザイン・ファシリテーション能力を高めるための実践的な研修を実施
- ・ **生徒の「情報活用能力」育成と情報・AIモラル指導**: 生成AIの利便性とリスク管理、情報モラルの指導事例を発信

令和7年度 特別支援学校部会の役割

特別支援学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援
ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の充実～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

令和7年度の成果と課題

①情報モラル研究会

各校でテーマを設定し、
学習成果をオンラインで共有



ミーティングを活用し、
他校と学びを共有

【成果】

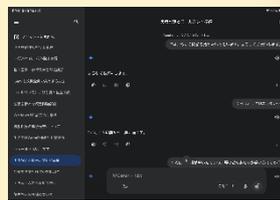
- ・県内特別支援学校がオンラインでつながり、各校における「学びを共有」

【課題】

- ・継続した指導になるような工夫及び学校間での意見交換の促進

②新たな学びや体験の創出

ICTをフル活用した新たな学びや体験の創出



アプリケーションの
開発

Gemini™ を活用した
支援ツールの活用

【成果】

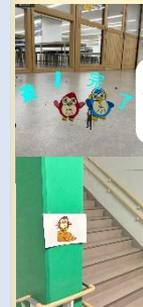
- ・各校において、ICTの活用による特色ある学びや体験を創出

【課題】

- ・リソース等を学校間や教員間で積極的に共有

③専門家との連携

専門家等との連携による
デジタル技術を活用した学び



ARを活用した
防災学習



VR・360°カメラを
活用した教材研究

【成果】

- ・専門家等との協働により、ICTの強みを最大限に発揮

【課題】

- ・好事例を共有することにより、他校における活用の横展開を促進

令和8年度の重点目標・方策等(案)

〈重点目標案〉

特別支援学校の実態・発達段階等に応じた 推進目標・全体重点目標に向けた支援
ICTをフル活用した新たな「学び」や「体験」の波及～シームレスにつながり、みんなの学びへ～

〈方策案〉

- ・好事例を周知し、活用法を共有
- ・専門家と連携し、新たな学びや体験に係る研究を推進
- ・「情報モラル・ターゲット表」の共有と活用による学習の拡充

令和7年度重点目標

徳島県における教育のDXを推進し、教育に必要で持続可能な環境を構築する協議及び調整を行う。

年度当初の課題

- ・ 県域の統一アカウントの円滑な配布と活用促進
- ・ 県立学校のネットワーク環境の最適化
- ・ タブレット端末の更新と教育利用の推進
- ・ 学校教育情報化推進計画の着実な実行と継続的な改善

方策

- ・ 有識者からの意見聴取と教育現場のニーズ反映を重視した計画策定
- ・ 関係機関との連携強化による効率的な事業推進
- ・ 教育効果の検証と計画改善のための評価体制構築

令和7年度の成果と課題

○徳島県学校教育情報化推進計画について

(1) 第1期計画について

- ・ 取組の進捗を確認し、計画に基づいた整備や活用が、県内の学校で進んでいることを県議会へ報告

(2) 次年度からの運用について

- ・ 現場のニーズに即した進捗管理を継続的に実施

○ネットワークについて

(1) 計画的な環境整備

- ・ 通信機器の更新時期を明確に定め、安定した通信環境を提供し続ける体制の整備

(2) 運用管理の高度化

- ・ ネットワークの状況を常に監視できるシステムと、異常を早期に検知できる仕組みの整理を行い、通信の安定性を高める

(3) 利用者の実感を重視した改善

- ・ 通信の数値データの管理に加え、実際の使用感把握の実施
- ・ デジタル教材の高度化による通信量の増加を予測した回線増強の検討

○県域統一のアカウント (Google) について

(1) 運用標準化と現場支援

- ・ 実務に即したマニュアルの作成および市町村教育委員会、学校への説明会の実施
- ・ 現場の状況に合わせ、運用方法を柔軟に見直し、マニュアル等を継続に改善する方針

(2) システム連携への対応

- ・ 校務支援システムの更新に合わせ効率的な更新方法を再検討
- ・ 将来的な外部システムとの連携を見据え、アカウントの設定ルールを最適化し、安定した運用体制の整理

○端末の更新について

(1) 次期端末更新に向けた基本方針

- ・ 次期更新で実現すべき指針の整理
- ・ 学習効果を高める最適な構成の検討

(2) 次期更新における指針

- ・ 円滑な活用のための環境整備
- ・ 教員の校務負担の軽減する管理体制の構築
- ・ 将来のデジタル教材に対応できる性能の確保

令和7年度 情報モラル・情報セキュリティ対策部会の役割

情報モラル・情報セキュリティ関係の情報収集・発信等

令和7年度の成果と課題

〈成果〉

- ・情報モラル意識向上に向けた取組の実施
- ・情報セキュリティポリシー遵守へ向けた取組の実施
- ・生成A Iの校務・授業での活用について研修会を実施
- ・「徳島県版G I G Aワークブック」やF A Qの更新

〈課題〉

- ・技術の進化や教育現場の課題への対応継続
- ・情報セキュリティに関する意識の更なる向上
- ・生成A Iの適切な利活用

令和8年度の重点目標・方策等（案）

〈重点目標案〉

情報セキュリティに関する理解を深め、先端技術を安全・適切に利用できる責任感を持った人財の育成

〈方策案〉

- ・自他の人権を尊重する情報モラル教育の推進
- ・情報を正しく安全に利活用できる情報活用能力の育成の推進
- ・校務の様々な場面における、生成A Iの適切な利活用の推進

令和7年度 学びの保障部会の役割

学校（教室）外における学びの場を保障するためのICT活用についての研究

令和7年度の成果と課題

〈成果〉

- ・ 学校計画訪問等を通じた好事例の収集（ICTを活用した学習成果の評価方法に関する好事例を収集）
- ・ 学習成果の適切な評価に向けた情報発信（義務教育段階の評価ポイントや過去3年間の資料紹介）
- ・ クラウドツールを活用した部会内の情報共有体制の構築
（共同編集可能な「報告シート」等を運用し、各校の取組状況を随時共有できる基盤の整備）

〈課題〉

- ・ 「県域のアカウント」を活用した支援の事例創出
- ・ ICT活用による学びと評価を繋げる工夫の収集

令和8年度の重点目標・方策等（案）

〈重点目標案〉

県域アカウントとICTの活用による「学びの場」の保障に向けた事例研究・創出

〈方策案〉

- ・ 活用を促進する「運用の工夫」に関する事例収集
- ・ 校内教育支援センター（SSR）や教育支援センター等の訪問による事例収集

令和7年度 データ活用研究部会の役割

教育データ利活用についての研究（県域アカウントを用いたデータ利活用・MEXCBTに関する調査）

※ MEXCBT（メクビット）：文部科学省のCBTシステム

令和7年度の成果と課題

〈成果〉

- ・ 県域アカウントを用いたデータ利活用推進（部会通信、学校訪問での周知）
- ・ キャリアパスポートのデジタル化に係るサポート資料を作成
- ・ MEXCBTについて他県の運用状況等を調査し実態を把握
- ・ CBTにおける「同一問題出題方式」と「IRT」の利点・課題を整理

〈課題〉

- ・ 県域アカウントがデータ基盤として機能するために、継続的な支援・活用メリットの周知が必要
- ・ キャリアパスポートのデジタル化にあたり、実務上の課題を解決するための支援が必要
- ・ MEXCBT以外の、学習データやスタディログを生成AIと連携させて利活用する研究が必要

※ IRT（項目反応理論）：学カスコアを推定するための統計理論で、それぞれに出題される問題も異なる。

令和8年度の重点目標・方策等（案）

〈重点目標案〉

県域アカウント・スタディログ・生成AIを用いた効果的なデータ利活用の研究・推進

〈方策案〉

- ・ 県域アカウントを用いたデータ利活用のメリット等の継続的な周知
- ・ キャリアパスポートのデジタル化について、実務上の課題解決方法の研究・提案
- ・ 各校が所有する既存のスタディログを活用した、データ利活用の研究

※各種のデータ利活用において、生成AIの活用も研究する。（Gemini・NotebookLMの活用）

令和7年度共同調達検討部会の役割 ※共同調達検討部会は、徳島県教育情報化推進協議会に係る検討組織の役割も兼ねる。

GIGAスクール構想推進に向けた調達スキームの構築・実行計画の提案 (小・中学校の端末・次世代システム等)

年度当初の課題等

- ・「学校業務支援システム」の更新に向けた、次世代校務支援システムの導入の検討
- ・GIGAスクール構想推進に向けた、端末機器等の仕様等の検討



方策

- ・他都道府県等への独自調査等を実施し全国状況の把握をしながら、校務支援システムワーキンググループにおいても検討を実施していく。
- ・端末調達に係る市町村の事務負担の軽減や、スケールメリットによる端末等の共同調達を通じた端末利活用等に係るノウハウを共有することで業務改善を図る。

活動の進捗状況・今後の予定

1.校務支援システムについて

【進捗状況】

- ・現場ニーズの集約として、ワーキンググループにて5回の協議を実施。協議や操作体験会を通じ必要な機能を精査。
- ・市町村との仕様調整として、各自治体と協議を5回実施。要望や課題を次期システムの仕様書に反映。
- ・部会での共有: ワーキンググループおよび市町村との調整状況を本検討部会で共有し、最終的な仕様の方向性を確認。

【今後の予定】 (図1)

- ・令和8年度、仕様書に基づくシステムの調達および環境構築。
- ・令和9年度、本格運用の開始。

【助言等について】

- ・学校現場の負担が軽減されるよう、学籍情報や指導要録のスムーズな引き継ぎができる仕組みづくりの推進。

2.学習者用コンピュータについて

【共同調達の実施状況について】

- ・令和7年度の実績
県立中学校および17自治体で端末更新が完了
- ・令和8年度予定
県立特別支援学校および6自治体での更新を計画

【仕様等について】

- ・性能基準について技術進展に合わせ見直しを検討
- ・従来の端末廃棄を継続および資産価値に応じた適正な処分の実施

【図1】校務支援システムの導入スケジュール

